



風かおる
人が輝き
躍動するまち

とままえ 10

No.650



まちひと百景

北海道日本ハムファイターズ戦を観戦!

9月23日(水)に北海道日本ハムファイターズ179市町村応援大使事業の一環で、本町の小中高生と保護者約100名が札幌ドームに招待され、対福岡ソフトバンクホークス戦を観戦した。

子ども達もお手製のボードや応援グッズを手に、大きな声援を送り、その甲斐あってか試合は延長戦の末、鮮やかなサヨナラ勝ちを収めた。

2015年苫前町応援大使の陽岱鋼選手はヒット1本だったが、守備では存在感を見せ、参加者も大変満足したに違いない。

- 古丹別小学校完成、苫前小学校着工へ・・・2
- 日本ハムファイターズ観戦記・・・3
- とままえ水泳競技会ほか・・・4
- チャリティフェスティバルinとままえほか・・・5
- 健康ばんざい・・・6
- 国民健康保険ガイド・・・7
- 国民年金・・・8
- 学びの広場・・・9
- 平成26年度健全化判断比率等の公表・・・10
- 住まいる情報・・・11
- 中学生ギャラリー・・・12

まちの人口

人口/3,335人(男/1,579人:女/1,756人)
世帯数/1,599世帯 (9月30日現在)

URL:<http://www.town.tomamae.lg.jp>



古丹別小学校 新校舎完成!

～児童の新しい校舎でのスタートは9月24日に～



上：完成した古丹別小学校校舎
右：登校した児童らは校内をキョロキョロ
左：児童らは新しい教室を気に入った様子

平成26年8月より着工した古丹別小学校建設工事で校舎及び体育館が完成し、9月24日(木)に児童らが新しい校舎での生活をスタートさせた。

古丹別小学校新校舎は本体工事で10億1千2百万円の費用を要し、鉄筋コンクリート造で校舎と体育館と合わせて2、688平方メートルで耐震化された建物となった。

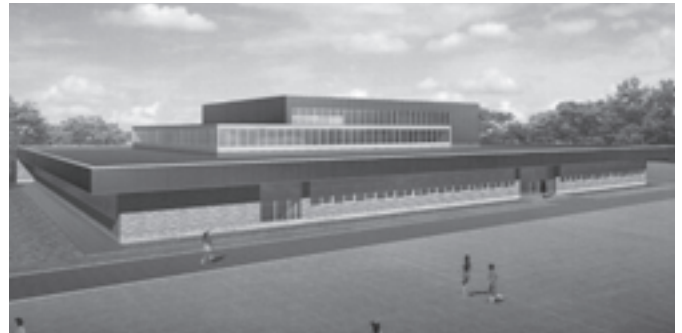
校舎の特徴としては、環境に配慮したエコスクールとして、校舎の暖房に木質ペレットボイラーを採用し、二酸化炭素の削減量を見ることが出来るモニターをホールに設置したほか、高い場所に窓を設けたハイサイド窓を設置し、自然光を取り入れられること、さらに、室内照明にはLED(エリイデー)ライトの設置や雨水貯留タンクを設置し、トイレの洗浄水や植栽への散水などに活用できる仕組みとしている。正面玄関から入ってすぐに多目的ホールと図書室を連続して配置し、開放的な空間作りも行っている。

また災害時にも活用できるよう防災倉庫を備え、非常食や毛布などの避難した際に必要なものを保管できるようにしている。

今後は旧校舎の解体とグラウンド整備工事が平行して行われ、平成29年10月にグラウンドの供用開始が予定されている。

苫前小学校は 10月より建設着工へ

～平成29年の3学期から新たな校舎に～



平成29年に完成予定の苫前小学校新校舎

9月14日(月)に福祉センターで苫前小学校校舎建設説明会が行われた。

池田文敏教育委員会教育長からのあいさつの後に、同委員会の開発法起管理課長の説明により、建設に着手する苫前小学校の概要が説明された。

同小学校校舎は校舎と体育館が一体となった建物で面積は2、599平方メートル、校舎・体育館の建設工事費としては11億1千5百万円となる。

校舎の特徴としては、古丹別小学校と同様にエコスクールとして、木質ペレットボイラーの採用や自然光を取り入れるハイサイド窓の設置、室内照明のLED(エリイデー)化などに加え、普通教室や廊下に地域材を活用するなど工夫されたものとなる予定。

建設は平成27年10月より着工、平成28年12月に完成する予定で、新たな校舎でのスタートは平成29年1月の3学期からの予定となっている。



校舎建設説明会に参加した保護者等



存在感を見せた陽選手

北海道日本ハムファイターズ 北海道179市町村応援大使事業 応援観戦ツアー一記

苫前町内の親子約100名が観戦、応援大使との交流も!

9月23日(水)に北海道日本ハムファイターズ北海道179市町村応援大使の事業の一環として、苫前町内の親子約100名が招待され、札幌ドームで開催された対福岡ソフトバンクホークス戦を観戦、生で行われる試合を目の前に熱い声援を送った。

当日は、午前6時30分に北海道日本ハムファイターズから送迎用バスが運行され、親子連れが乗り込みいざ札幌へ出発した。

札幌ドームへ到着後は、選手らの練習風景を見学。生で見る選手に参加した親子からは笑顔が絶えなかった。その後、別室で2015年苫前町応援大使である陽岱鋼選手が試合前にもかかわらずサプライズで登場、記念写真を撮影した。一緒に写った参加者は喜びを隠せず、握手を求めると大喜びだった。

また、町を代表し苫前サンダース主将の平井憲吾くんから陽選手に差し入れを贈呈、「今日の試合がんばってください」と伝えると、陽選手も「ありがとう」と答えてくれた。

札幌ドーム入口付近に本町のPRブースも設けられ、応援大使の限定ステッカーが封入されていることもあり、パンフレットや苫前町産のほしのゆめの2合入りの袋が入った200袋があつという間に無くなる大盛況となった。

北海道日本ハムファイターズからは参加者へお弁当やお茶のほか、応援大使の限定ステッカーやスポーッタルなどのお土産があり、弁当を味わいながら、試合開始を待った。

午後1時いよいよプレイボール、3回のウラに、札幌ドームの大型ビジョンに本町の応援席がクロージアップされると、参加者はお手製の応援ボードを掲げ、ひととき大きな声援を送り、周りの観客からも大きな拍手が巻き起こった。

その声援に後押しされてか、その回到浅間大基選手の3塁打、石川亮選手の犠牲フライで先制すると、本町の応援席からも「ナイスバッティング」などの声援が飛んでいた。

その後試合は、北海道日本ハムファイターズは有原投手、福岡ソフトバンクホークスがバンデンハーク投手の投げ合いで投手戦となり、ファイターズ1点リードの9回1アウトから、ホークスの長谷川選手に同点ホームランを浴び、試合は延長戦に、応援席からは「あともう少しだったのに」という言葉と大きなため息が漏れた。

今日は引き分けかと思われた11回ウラ、1アウト1・2塁から浅間大基選手がライトへ2塁打を放ち、ファイターズが劇的なサヨナラ勝ちを収めた。

2015年苫前町応援大使の

陽岱鋼選手は、3回にヒットを放ち4打数1安打の結果だったが、応援した参加者は勝利したこともあり、大満足の観戦ツアーとなったようだ。



手作りのプラカードや今回の記念にもらったタオルなどで子ども達も保護者も声援を送る



試合前の練習もしっかり見学



試合前には陽選手もトマトジュースの差し入れに、苫前サンダースの平井くんとニコリ



開場時には苫前町をPR



鵜久森選手は本試合には帯同せず